

情報通信審議会情報通信技術分科会 CISPR 委員会（第 26 回）
議事録

第 1 開催日時

平成 20 年 4 月 21 日（月） 15 時 00 分～16 時 5 分

第 2 開催場所

三田共用会議所 4 階 第 4 特別会議室

第 3 出席者（順不同、敬称略）

主査：杉浦行

主査代理：野島俊雄

構成員：雨宮不二雄、篠塚隆、塚原仁、徳田正満、藤原修、山中幸雄、
市野芳明、井上正弘、上芳夫、川崎邦弘、田島公博、千代島敏夫、
長沢晴美、羽田隆晴、平伴善光、堀和行、松本泰、山口高、

関係者：長部邦廣、田中信昭、野田臣光、小玉博一、出口洋平、吉岡康哉

一般傍聴者：1 名

総務省：杉浦電波環境課長

事務局：大泉電波環境課電波監視官、元村係長

第 4 議事次第

1 開会

2 配付資料の確認

3 議事

(1) CISPR 委員会（第 25 回）議事録案の承認

(2) CISPR SC-B NP提案

(3) エキスパートメンバー変更

(4) その他

4 閉会

第 5 議事概要

(1) 事務局から配付資料の確認があった。

(2) 前回議事録（案）について修正意見があれば 4 月 25 日（金）までに事務局あてに連絡することとして承認された。

(3) 資料 26-2-1「電子レンジ放射妨害波 APD 許容値に関する NP 提案」について、その背景、目的、概要について B グループ主任の篠塚副主査から提案の説明があった。

・ APD 測定法は日本から提案して、既に CISPR16-1-1、16-2-3 に記載されている。最近、APD 測定器が市販されるようになったので、かねてから検討してきた電子レンジの妨害波測定に適用するように CISPR11 の修正案を提案したい。

・ 具体的には、CISPR11 の 5.2.3 項（1-18GHz の規格）に、表 9 の許容値表と 6.5.4.3 項の APD 測定法を追加する提案である。この許容値は従来のピーク値

をそのまま APD 10^{-7} 対応のレベル dB (uV/m)、従来の重み付け許容値 (対数平均値) を APD 10^{-2} 対応のレベル dB (uV/m) (ただし数値は未定で工業会と協議中)、とするものである。

・以下の議論の後、10月の大阪会議で各国意見を審議できるように、5月中旬にBグループ会議、CISPR委員会のメール審議を経て、5月下旬にはNP提案を発送することが承認された。

杉浦主査：現在 CISPR では同一規格に複数の測定法が存在する場合は基準となる測定法を指定することの是非を議論しているが、Bグループとしては複数の測定法 (許容値) を作ることをどう考えているのか。

篠塚副主査：通信への妨害性の評価の面では現行法より優れており、測定法にもメリットがある。まだ市販測定器がなかったため各国の反応は少ないが、ドイツは特に乗り気である。

野田委員：現行の重み付け測定法は対数平均だが背景雑音レベルの大小により測定値が変動する欠点があり、測定値の意味が不明瞭であるので、いずれ CISPR の測定法から削除する、という合意がある。

また、APD法は再現性が良く、測定時間も短縮できるメリットがある。

山中副主査：APD法は最終的には代替ではなく置換として考えるべきではないか。

篠塚副主査：現在の測定法を決めたとき短期的な許容値としたので、長くは続けられず、APD法が将来形に相当すると考えられる。

雨宮副主査：表9の許容値の根拠は何か。

井上委員：現在の許容値には歴史的な経緯がある。従来のピーク許容値をそのまま使用し、相当する APD 確率 10^{-7} に合わせたというもの。

篠塚副主査：平均値の方は 10^{-2} を考えているが、具体的な数値はこれから決める。

杉浦主査：表の許容値が TBD (未定) で NP を提案するのか。

篠塚副主査：許容値は 60~70 を考えているが、工業会の検討を待って相談する。

(4) 資料 26-2-2「分散型電源の EMC に関する NP 提案」について、その背景、目的、概要について JEMA の関連分科会事務局の出口氏から説明があった。

・GCPC (分散型電源用パワーコンディショナ) として、太陽光発電システムと据置型燃料電池システムがあり、これらの 150kHz~30MHz の伝導妨害および、30MHz~1GHz の放射妨害の許容値と測定法の CISPR11 への追加を提案したい。

・AC 配電側だけでなく、太陽光発電システムでは DC (太陽電池) 側の許容値も決めたい。

・大阪会議で審議したいので5月中にNP提案したい。

・プロジェクトリーダーには専門の技術者を探しているが、どうしても適任者が見つからない場合には、JEMA事務局の柴田氏を考えている。

・以下の議論の後、APDのNPと同様に、10月の大阪会議で各国意見を審議す

るために、5月下旬にはNP提案を発送することが承認された。

杉浦主査：ContentsのうちScopeやNormativeの項目は不要ではないか。

出口氏：本提案が単独規格になることも想定して入れている。

杉浦主査：本文や許容値は検討しているのか。

井上委員：ドラフトはできており、実際のNP提案には素案を添付する。

雨宮副主査：本NPの審議分担は大阪のCISPR/Sで決めるのか。

野田委員：昨年のシドニー会議のSC/Bの論議で、SC/Bでまとめたいが、家庭用を想定するとSC/Fの可能性もあり、どちらにするかCISPR/Sで決めることになった。

杉浦主任：本件に関してCISPR委員会からIEC/SMBあてに報告が出ており、SC/Bが新規プロジェクトを検討するとあるので、SC/Bが担当することが決定されている。

雨宮副主査：DC系の測定法を考えているのか。電話局設備との関連がある。

小玉委員：高インピーダンスプローブで測定しているが不安定で再現性が悪い。DC測定用のLISNを考えたい。

徳田副主査：太陽電池はパネルから妨害波が放射されるので、通信系とは異なる。

- (5) 資料 26-3「エキスパートメンバー変更について」、事務局から説明があり、以下のコメントの他、特に異議なく承認された。

雨宮委員：最近のブロードバンド通信では無線周波数と妨害波周波数が一致する確率が1.0となり、H/IのJTFでは抜本的に許容値モデルを見直す予定である。

(6) その他

- ① 山中委員から、CISPR16-2-3の国内答申に向けた作業の進捗状況について、この2ヶ月以内に翻訳を完了して答申案の策定に入り、6月のAグループ会議で議論してCISPR委員会に諮る予定が報告された。
- ② 事務局から、総務省のある合同庁舎2号館の通行管理が厳しくなり、事前に届け出てICカード通行証を当日受け取るようにとの注意があった。
- ③ CISPR大阪会議については別途打ち合わせる。
- ④ 次回開催時期は別途調整して連絡する。

以 上